



伊東忍「授業日記」

釜田, 史

(Citation)

研究論叢, 30:61-70

(Issue Date)

2024-06-30

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100491461>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100491461>



伊東忍「授業日記」

釜田 史
(愛知教育大学)

はじめに

本稿は、『内外教育新報』に掲載された伊東忍の「授業日記」全文を翻刻したものである。

『内外教育新報』は、1878（明治11）年3月5日に創刊され、第248号（1879<明治12>年9月27日付）をもって廃刊となった民間の教育新聞である¹⁾。その記事内容は「録事」「社説」「雑報」「衛生」「外国新報」「宗教雑報」「学問ノ話」「校規教則」「投書」「広告」によって構成されたという。「授業日記」は、『内外教育新報』第165号、第166号、第167号、第169号、第170号、第172号、第178号、第180号、第183号の「投書」欄に断続的に掲載された²⁾。

伊東忍「授業日記」に関する先行研究として滑川道夫³⁾、寺崎昌男⁴⁾、豊田ひさき⁵⁾、松本裕司⁶⁾による研究をあげることができる。このうち松本による研究では、伊東忍の経歴について詳細な調査と検討が加えられており、これを参照すれば伊東の主要な経歴は以下のようにまとめることができる。

伊東忍は、1858（安政5）年12月23日、秋田県（由利郡矢島町）に生まれた。藩校日新堂で学んだのち、1873（明治6）年に矢島小学校教員となるとともに、秋田県伝習学校（のちの秋田県師範学校）から派遣された教員による速成の伝習を受け、下等小学仮免許状を取得した。当時、伊東は15歳、月給3円が支給された⁷⁾。

1877（明治10）年6月、東京府師範学校の速成生として卒業、同月6日、東京府三田台町御田学校に5等准訓導として着任した。同

年8月には本郷元町明十学校に転任したが、同校はわずか1年にして廃校となり、小石川表町礪川学校に転任した。この礪川学校における教育実践をまとめたものが「授業日記」であると考えられている。

1880（明治13）年1月、伊東は礪川学校を辞職し、同年9月に小石川大塚窪町明化小学校教員（のちに訓導、教頭）となり、1882（明治15）年7月には小学高等科教員免許状を取得した。同年9月、明化小学校の3等訓導兼校長となったが、翌1883（明治16）年10月16日付で依願退職、翌年に『小学合級授業法』（勸文堂）を出版した⁸⁾。教職から離れたのちは司法省法学校（3年課程）に入学、同校を卒業後「代言人」の資格を取得、1893（明治26）年に弁護士資格を取得し法曹界に入った。1927（昭和2）年に帯広にて死去。

「授業日記」の教育史的意義については、寺崎昌男が「日本に残る教育実践記録でもおそらく最古のもので、他に例を見ない……学制期のおわり、明治10年代初めの教育の実態を知るうえでは欠かせない資料となっている」と指摘している⁹⁾。従来、欠落していた第180号を含め、ここに「授業日記」の全文を翻刻し、明治初年の小学校教員が置かれた職場環境の実態、子ども達の様子やそれに対応する伊東の子ども観、積極的に新しい教育理論や教育実践を学び吸収しようとする一人の小学校教員の生活等を検討する手掛かりとなることを期待する¹⁰⁾。

【謝辞】 寺崎昌男先生には、伊東忍『授業日

記』全文を寄贈していただき、翻刻するきっかけを与えていただきました。記して感謝申し上げます。

本稿は、令和4年度愛知教育大学 学長裁量経費による研究助成を受けて取り組んだ研究成果の一部である。

註

- 1) 『内外教育新報』に関しては、次の先行研究を参照した。①木戸若雄『明治の教育ジャーナリズム』大空社、1990年、5-7頁。②教育ジャーナリズム史研究会編『教育関係雑誌目次集成』（第1期・教育一般編 第20巻、各誌解題）、1987年、95頁。③大間敏行『『内外教育新報』にみる初期教育雑誌の一樣態——沿革・発行部数・流通実態に焦点をあてて——』筑波大学大学院人間総合科学研究科教育基礎学専攻編『教育学論集』第5集、2009年、23-46頁。
- 2) 「授業日記」が掲載された『内外教育新報』の発行年月日は以下のとおりである。第165号：1878（明治11）年12月（日付不詳）。第166号：同年12月17日。第167号：同年12月20日。第169号：同年12月27日。第170号：同年12月31日。第172号：1879（明治12）年1月8日。第178号：同年1月25日。第180号：同年1月31日。第183号：同年2月9日。
「授業日記」は、註3)の『近代日本教育論集6 教師像の展開』に全文が、註4)の『日本の教師22 歴史の中の教師Ⅰ』には一部が収録されている。ただし、第180号が欠落していることを、註6)において松本裕司が指摘している。
- 3) 滑川道夫『『学制』改革期における“授業日記”考——近代日本教育史における教育実践記録としての意義』東京教育大学教育学部編『東京教育大学教育学部紀要』第15巻、1969年、13-25頁。同「伊東忍 授業日記」寺崎昌男編『近代日本教育論集6 教師像の展開』国土社、1973年、39-53頁。
- 4) 寺崎昌男「解題」寺崎昌男・前田一男編『日本の教師22 歴史の中の教師Ⅰ』ぎょうせい、1993年、

31-42頁。

- 5) 豊田ひさき『小学校教育の誕生』近代文芸社、1999年。
- 6) 松本裕司「明治前期の小学教員・伊東忍の指導技術の形成過程」『國學院雑誌』第93巻第7号、1992年、39-50頁。
- 7) 『秋田県教育史』第1巻、資料編一、第一法規出版、1981年、845-846頁。
- 8) 伊東忍著『小学合級授業法』については、仲新・稲垣忠彦・佐藤秀夫編『近代日本教科書教授法資料集成』第3巻 教授法書3、東京書籍、1982年所収を参照した。なお、巻末には佐藤秀夫による同書の「解題」が掲載されている（828-833頁）。
- 9) 寺崎昌男「解題」寺崎昌男・前田一男編『日本の教師22 歴史の中の教師Ⅰ』、前傾註4)に同じ、41頁。
- 10) 伊東忍「授業日記」については、船寄俊雄・近現代日本教員史研究会編『近現代日本教員史研究』風間書房、2021年、21-35頁において検討した。本稿とあわせて参照していただければ幸甚である。

伊東忍「授業日記」

【第165号】

○府下寄留伊東忍君ヨリ授業日記ト云フ小冊子ヲ郵送セラレタリ余輩受ケテ之ヲ読ムニ其用意剋切懇到ト云フベキナリ今其煩碎ヲ削リ其要項ヲ摘シ以テ之ヲ連号ニ掲ク而ルニ原稿ハモト同日ヲ遂フテ記シタルモノナレバ其授業ノ順序ニ関スルモノハ第何日ヲ記シテ次第ヲ示ス看者了セヨ

編者識

東京府小学尋常科教則抜書

○六級前期

読物復読 伊呂波図并濁音次清音図ニテ仮名ノ読方ヲ教ヘ終テ小学生徒心得東京府制定ヲ授ク

書取 伊呂波并小学生徒心得中ニ散見セル単語ヲ正草二体ノ仮名ニテ書取ラシム

算術 一ヨリ百マデノ数ヘ方ヲ^(数カ)数ヘ次ニ数

字図ト算用数字図ヲ示シ数字ノ読方并
一ヨリ百マデノ位取方ヲ教フ

講述 修身談 養生談 実物示教

習字 小学習字帖原本中ノ第一(東京府編纂)
先読方ヲ教ヘ後直ニ双紙ニ就テ習ハシ
ム

一、学校ハ伝通院学頭寮跡ニシテ舎ハ学校本
棟ノ中央ニ位シ西方ニ黒盤ヲ据エ東方即チ後
面ノ玻璃障子及ヒ其上ノ紙窓ヨリ光線ヲ受ケ
左右ハ板戸ナレハ十分明ルキニハアラス

一、席ハ男子ト女兒トヲ分チ男ヲ教師座ノ左
傍女ヲ右方ニ列セシメ出入進退共ニ混淆スル
ヲ防ク是レ此稚児ニ在リテハ過慮ニ似タリト
雖ドモ有別ノ大札ヲ恪守セシムルハ必スシモ
来年ヲ待タサルナリ

一、休憩時間ニハ必ス先ツ圍房ニ行カシメ悉
ク了ルヲ見テ遊戲許可ノ令ヲ下ス喫飯モ亦然
リ斯克每一時間行カシムルヲ以テ開舎以来ニ
週余間課業中席ヲ離レタルモノモアルコト
ナシ之ヲ怠ラサレハ終ニ慣習ヲ与フルヲ得ヘ
シ通例退屈ナルヨリニ之ニ托シテ席ヲ離ルハノ
弊アレバ倦マサル様教授スルハ尤意ヲ用ウヘ
キ所ナリ

一、飲食中ノ行儀ハ暗ニ其人ノ品行ト度量ト
ヲ示スモノニテ且先ヲ爭フテ箸ヲ執ル等ハ極
メテ無礼ナルモノナレハ先ツ令シテ順次ニ弁
当ヲ取テ卓上ニ安セシメ各生茶ヲ汲ミ終ルヲ
待チテ一礼ヲ行ヒ始メテ箸ヲ執ラシム且嚴ニ
談笑ヲ禁ス西洋ノ養生家ハ食中ノ談笑ヲ可ト
シ其間三十分杯ト唱フルナレドモ我国ノ作法
ト異ル所アル故決シテ採用セサルナリ

一、習字ハ力迄清書済ム都テ凡五十分間(教
則ニハ四十分トアレドモ本校ノ都合ニテ遊戲
ヲ十分トス)ニテハ倦怠スルナレバ二十分乃
至二十五分ニテ科ヲ替ヘタリ実ハ該級ハ三十
分毎ニ遊歩セシメ最初ハ一日習業四時ニテ適
当ノコトニ思ハル然レドモ一般定例ハ勿論他
ノ教場ニ影響ヲ生スルヲ以テ敢セス

一、講述ニ於テハ平素ノ心得方ヲ懇論シ且譬

喩ヲ設テ修身養生ノ談ヲナシ或ハ生等平生嗜
ム所嫌フ所ヲ問ヒ或ハ家ニ在テノ起臥ノ景況
ヲ問ヒ之ヲ戒メ之ヲ賛シ善惡ヲ分析シ利害ヲ
説明シタリ且眼前ニアル物品ノ性質部分功用
等ヲ問答シ併セテ族籍住所姓名年齢等ヲモ問
答セリ

一、算術ハ先ツ日本数字ノ読方ト数ノ唱ヘ方
ヲ教ヘ垂テ西洋数字ヲ対照シテ之ヲ教ヘ算類
ノ算シ方及ヒ屈指ノ方ヲ授ク現今三十迄

或ハ黒盤ニ組盃魚群行雁若干匹ノ丈幾片ノ花
等ヲ書キテ之ヲ算セシメ或ハ眼前現在ノ机腰
掛名札ノ数等ヲ算セシメ勉メテ倦マサラシム

一、読ミ方ハ進ミ易ク書キ方ノ進ミ難キハー
般ノコトナレハ五十音両体ヲ読ミ得ルモ之ヲ
書キ得ルハ逆モ一週ノ能クスヘキ所ニアラ
サレバ適宜酌量シテ明日ヨリモ生徒心得ヲ授
クヘキ目的ナリ是トモ三四ノ生徒ヲ除クノ
外ハ文字ヲ認メテ読ムニ非ス云ハバロニテ慣
誦スルノミナリ尤之ヲ授クルノ際十分注目セ
シメ決シテ邪觀等ハ許サスト雖モ然ク急進ス
ヘキモノニ非レバ先々其好ム所ニ応シテ之ヲ
授ケ漸々文字ヲモ記セシムヘシ今ノ処ニテハ
鼓舞作興シ学校ニ来テ業ヲ勤ムルヲ樂マシム
ルヲ主トスヘキコトナリ

【第 166 号】

一、古閑某姉弟兩人入校ノ際ハ家婢之ニ從ヒ
シカ四五日ニテ要セサルニ至レリ佐野某ハ深
房ニ長シタル愛児ノ由ニテ日々老嫗來侍セリ
今日迄ハ正午限ニテ帰宅スルヲ許セシカ明日
ヨリハ午後モ在校スヘキヲ命セリ

一、合志林蔵老兄ヲ訪ヒ問フテ曰ク近来ノ教
育書ハ何ヲ以テ巨擘トナスヤ曰ク必読及ヒ那
然氏教育書ト出シテ之ヲ示ス且曰ク教師必読
ハ空談理論ニ涉ルコトアレハ那然氏尤モ行ハ
ル曰ク弟今礪川学校ニ在テ六級前期生ヲ教授
セリ頃日授業日記ヲ製シ日々授業ノ真況及ヒ
其目的等ヲ詳カニ記シテ以テ自ラ省ミ併セテ
大方ノ叱正ヲ仰キ教育ノ正鵠ヲ得ント願フ如
何曰ク甚妙那然氏ノ如キモ縷々之ヲ弁セリ而

シテ六級前期生ヲ教授スルハ工夫ト注意ノ二者ニアルノミ曰ク謹テ教ヲ奉セン

一、前ニ記セシ如ク隣舎ニ午前三時間兼授午後一時間全授セリ双方共ニ尚幼稚ナレバ兼授ノ際充分ノ利益ヲ授ケ鄭重ノ動作ヲ行ハシムルコト甚難シ然レドモ宵盥工夫ヲ運ラシ実地注意ヲ込ムルヲ以テ妙計随テ出テ幸ニ通例ノ業ヲ勤メ他舎ノ妨トモナルヘキ喧擾ヲ免ルヲ得タリ是レ固ヨリ暫時ノ策ナレドモ工夫ト注意ヲ以テ得ル所ノミ

一、前段問答ノ部ニ族籍住所等ノ事ヲ記セシカ同僚齋藤氏ノ幼稚問答ニ切要ナリトスル所左ノ如シ応ニ明日ヲ待テ之ヲ行フベシ

生徒ノ父母 兄弟 近親ノ名

生徒ノ宅ノ近傍町名

家ニ在ルノ間遊戯ノ箇所

余之ヲ補フテ曰ク

家ノ近傍ニアル神社仏閣

学校往還ニ当レル町村名及ヒ橋阪等

一、摘書ハ五十音正体ヲ單呼スルコトハ稍々熟シタレバ今日ヨリ座右ノ物名舎中ノ姓名日常耳目ニ慣ル、所ノ禽獸草木ノ名或ハ人体部ノ称ヲ盤上ニ綴書シテ之ヲ読マシム但草体ハ未タ其度ニ至ラス

一、昨日来生徒心得ヲ授ク以前ノ教則ニテハ五十音終リ單語連語トノ順序ナリシカ今度直ニ生徒心得トナシタルハ蓋シ連語中甚タ難キ処アル故ナラン然レドモ此心得モ随分文章ノ高尚ナル処モアレハ可成丈簡略ニ授ケ且前文摘書云々ノ法ニテ之ヲ裨補スルノ目的ナリ

一、按スルニ人生ノ知識ハ其他ノ開化ノ度ニ從テ差違アリト雖ドモ何歳ノ時ハ何程ト大抵極リノアルモノナレハ幼稚ノ課業ハ務メテ簡單ヲ旨トシ已ニ見得知得タルモノニ就キテ之ヲ智ヲ開キ而シテ後類ヲ推シテ精密高遠ニ及ホシ申課熟シテ之課ニ進ムヘク決シテ始メヨリ故ラニ強促移植或ハ数課一時ニ熟セント望ムヘカラス然レドモ今ノ教師嘗テ官府ニ得名ヲ世間ニ伝ヘント欲スルノ急ナルヨリ生徒ノ

力ヲ量ラス高尚ニ涉リ靈無ニ馳セ却テ成規外ニ出ルナキニシモアラス是レ現在ニ実益ナキノミナラス他日ニ恐ルヘキ大害ヲ貽スモノナレバ余ハ権限ヲ確守シ成規ニ準拠シ決シテ高尚靈無ナキ幼稚ヲ註誤スル等ハ為サ、ル所ナリ名ト変ト固ヨリ求メサルナリ

【第167号】

○稚児ハ総テ図画ヲ好ムノ性アレハ今日算術ノ時間博物図ヲ掛ケ禽獸虫魚ヲ算セシメシニ甚タ欣々ノ色ヲ徴ハセリ顧フニ倦マスシテ業ヲ勤メシムルヲ主トスルコトナレハ必スシモ算額ニ限ラス時々方ヲ換フルヲ適當ナリト思考セリ（第二十一日）

一、生徒心得読方ハ授ケタレドモ彼は多端ニ涉レハ氣義ハ未タ授ケス書取ハル迄清書ハシ迄済ム算術ハ四十迄算ヘ三迄ヲ書取ルヲ得タリ而シテ日本数字ナラバ三十五四十等モ読ミ得ルト雖ドモ西洋数字ハ未タ能クセス（第二十二日）

一、二十三日ハ新嘗祭二十四日ハ日曜日ニテ休暇ナリシ故今日ハ諸課殊ニ摘書書取ノ鈍クシテ且忘レタルモノ多キヲ覺エ是レ漸進ヲ主義トシテ教授セント雖ドモ尚急促仮粧ニ涉リテ未タ浸染セサルカ故ナレバ同シ事ヲ幾度モ繰返シ自然ニ覺エ込ム様ニセザルベカラザルコトナリト悟レセリ（第二十三日）

一、幼稚ヲ待スル寛ニ過クレハ疎暴トナリ驕傲トナリ嚴ニ失スレハ姑息トナリ卑屈トナルハ免ル、能ハサル所ナレバ甘言ヲ用イス叱咤ヲ要セス懇誨以テ其中ヲ得沈着ニシテ活発ナル良慣ヲ与フルハ言ヒ易クシテ行ヒ難キコトナレドモ教師篤志ヲ有シテ注意ト反省ヲ怠ルナクハ豈ニ得サルノ理アランヤ要スルニ動作ハ嚴ナルモ寛ナル勿レ術業ハ長所ヲ称揚シテ之ヲ鼓舞スルモ故ラニ短所ヲ指摘シテ之ヲ責讓スヘカラス是レ余ノ心ニ銘シテ忘レサル所本日放課ニ臨ミ生等ニ謂テ曰ク今日雨甚シ君等遠路ヲ辞セス猶来テ業ヲ脩ム一モ凝滞アルナシ是レ君等耐忍勉強ノ致ス所ニアラサル

ナシ余殊ニ之ヲ満足ス某々四君ノ如キ距離遠
キニアラス疾病事故アルニアラスシテ今日ノ
降雨先日ノ隕霜並ニ出校ヲ避ク如此クンバ恐
ラクハ他日ノ美果ヲ得ル難カルヘシ君等宜シ
ク自ラ戒メ自鑑ミ怠惰ニ陥ル勿レ因ニ告ク凡
ソ人タルモノハ礼節ヲ重ンシ入りテハ即チ孝
ナルヘク出テハ即チ悌ナルヘク男女ノ別ヲ
守リ剛健温順各養フ所アルヘシ云々

一、教場進退ハ毎時間総テ撃版ニ従フヘキハ
勿論ナレドモ上級ノ生徒殊ニ二級ヲ合セ教フ
ル所ニテハ常ニ短キヲ告クト雖ドモ初級ノ生
徒ニ在テハ陰晴ノ日柄ニ依リテ猶長キニ苦ミ
(前既ニ記セシ如ク本校ノ遊戯ハ十分時間ナ
リ) 頻ニ疲倦ノ状ヲ形ハスコトアリ如斯時ニ
ハ百方教ヘ込マントスルモ到底無益ナレハ適
宜酌量シテ遊戯セシムル方然ルヘシ其他生徒
能ク勉強シテ授業ノ抄取ル時ニ於テモ之ヲ賞
シテ三分乃至五分先チテ遊戯ヲ許ストキハ大
ニ進取ノ氣象ヲ發揮シ専心業ヲ脩ムルニ至ル
是レ頃日試ムル所ニシテ今日著シキ成績ヲ見
タレハ聊カ之ヲ記ス 但他舎ノ妨トナラサル
様十分注意セリ

一、今日行フ所ノ小試験ハ生等二十六日間学
ビ得タル所ノ適当ノモノニ就キ其能ク記スル
ヤ否ヲ判シ席次ヲ定ムルモノニテ定期試験ノ
格例ニハ關セサルナリ

一、読物ハ生徒心得図一幅ヲ読了セルガ煩ヲ
恐レテ講義ハ未タ之ヲ授ケサレハ読方ノミヲ
為セリ而シテ兩人同所ヲ読ムアルモ敢テ妨ト
セサルナリ点数五

一、摘書ハ五十音兩躰ニテ正体ハ人躰部及ヒ
動物ノ名ニテ生等ノ能ク知ル所ノモノニ就キ
一人ニ付二語例ヘバク チ ズ ミ 草 体ハ單書
シテ一人ニ付四字例ヘバか ち ぐ り点数四

一、書取ハアカサタノ四行ヲ書キ得ル迄ナレ
ハイ オ ク ス コ ソ タ チノ八字ヲ書セシ
ム点数四

一、算術ハ十一ヨリ四十迄ノ内日本数字読方
二点算顆ニテ一ヨリ五十迄算ヘ方五点合点数

七

一、習字ハ四字ノ定ナレドモ今月ハ三字ツハ
習ハセタレハ明日ノ清書ス セ ソヲ以テ之ニ
充ツベシ点数五総点数二十五(第二十七日)

一、小試験相済ム即チ左ノ表ノ如シ表中ニ記
セル如ク年齢不同ニシテ智力ニ差違アリ其成
育ヲ妨ケス芽萌ヲ害セス各適当ノ教ヲ施サン
カ人毎ニ異ニセサルヲ得ス其煩雜豈ニ堪フル
所ナランヤ必ス成規ニ依テ一様同等ノ教ヲ施
サンカ其妨害量ルヘカラサルナリ然ラハ其中
ヲ酌ミ煩雜ヲ避ケ妨害ヲ除キ各其度ニ満タシ
ムルハ教師臨応ノ妙ニアルノミ而シテ年齢長
シ学力秀デタルモノハ後期ニ繰上ケ学齡未滿
ノモノハ二期間ニテ卒業スルモ敢テ不可トセ
サルナリ(第二十八日)(表略ス)

附録

一、五級前期ノ地理初歩ハ地学ノ階梯ヲ受ク
ル義ニテ山川湖島等ヲ記セシムルハ至極佳ナ
リト雖ドモ未タ吾ガ住スル所ノ国郡海湾モ知
ラサルモノニ三大陸五大洋ヲ説キ未タ己ノ住
スル街市岡溝ノ図ヲ見サルモノニ地球儀ヲ示
ス等ハ穩妥ナラサル事ナリトハ世ノ論者ノ唱
フル所就中天文度数ニ關係セルコトハ甚タ困
難ニテ詳ナレハ却テ惑ヲ増ス故ニハ簡様ナル
モノト鵜呑ニセシムル外良策ナシ曩キニ主長
市川氏受持中地球ハ橙ノ如シ云々ヲ講明スル
ニ実ニ詞ヲ出スニ苦メリト真ニ然リトス

一、六級後期及ヒ五級前後期等ノ書取ハ教則
上ニ読本地理書中ノ熟語ヲ書取ラシムトアリ
然リト雖ドモ教師能ク注意シテ雅語粹句ノミ
ニ限ラス傍ラ日用ニ適スヘキ器具衣服飲食等
ノ名ヲ教ヘ未タ作文ノ科ニ至ラサルモ年齒ヲ
酌量シテ俗間贈遺物ノ表書書式等ヲ授クルコ
ト肝要ナリ

一、一日四級前期生徒ヲ兼授ス該生ハ一般中
等以上ノ人物ニシテ女兒殊ニ慧敏ナリ乃チ場
ニ登テ一札ヲ行ヒシニ生等多クハ粗忽ニシテ
小山某ナル男子ハ全ク之ヲ欠キタリ乃チ之ヲ
讓メテ曰ク何モ以テ札ヲ欠キタル生謝シテ行

フ然レドモ不恭之ヲ再ヒセシム生即チ側面シテ頭ヲ机上ニ安置ス余容ヲ改メテ曰ク其礼式ハ何レノ国ニアルヤ吾子級中ノ首席ヲ占メタレハ他ノ模範トモナルヘキモノナリ而シテ今此ノ如キ人ヲ嘲弄スルノ大不敬アリ吾子ノ為ニ悲マサルヲ得サルナリ生惶恐謝シテ曰ク兒過テリ高命誠ニ是ナリ請フ恕セヨ々々乃チ諸生ニ論スニ沉潜恭敬ハ人世処世ノ一大緊要事タルヲ以テス満場肅然唯々磕頭

附言教師生徒ニ向テ靈威ヲ張ルハ堅ク禁スル所ナレハ其恭敬ヲ得重望ヲ繁ケンニハ信ヲ先ニシテ威ヲ後ニスヘシ其過ヲ讓ムルニ当テハ温言懇諭シテ悔悟感服ニ至ラシムヘク大喝慢罵シテ激動不平ヲ起サシムル勿レ

【第169号】

一、本日ヨリ生徒心得ノ講義ヲ授ク其法或ハ一斉ニ唱ヘシムル等粗々読物ニ同シ是レ拙ニ似タリト雖ドモ幼稚ハ人ノ声ニ因テ学フモノニシテ斯克セサレハ容易ニ覚え込マシムルコト能ハサルモノナリ且又熟字ノ意義ヲ授ケ或ハ之ヲ問フヤ務メテ普通簡單ナル俗語ヲ用ウ詳ナレハ却テ惑ヲ増スノ患アレハナリ

一、佐野某入校ノ際ヨリ日々老嫗來侍セシカ今日ヨリ要セサルニ至リ遊戲モ衆ト共ニシ聊カ臆スル所ナシ

主長市川氏語テ曰ク曩ニ湯島学校ニ在勤スルヤ一生アリ日々老婆來侍須臾モ其側ヲ離レス若シ離ルハアレハ直ニ涕泣ス是レ深房ニ生長シ未タ曾テ他兒ニ接セサレハ之ヲ恐ルハ蛇蝎ノ如ク若シ他ノ襲撃ニ遭ハズ誰ニ頼テ此身ヲ護センヤトノ柔弱心ヨリ起リタルヲ知リタレハ務メテ之ヲ慰安シ曰ク百事余ニ特頼セヨ他生恐ルハニ足ラサルナリト生ニ於テヤ安心欣躍爾後独歩ニテ昇退其業モ大ニ進メリト今余ノ佐野ニ於ケル恰モ其轍ヲ同フス（第二十五日）

一、男子三名女兒一名入校アリ府下私学他県下或ハ私宅等ニテ其端緒ヲ学ヒ得タルモノハ

由ナレドモ全三十日間正課ヲ踐ミタルモノト平均ナラシムルハ一ノ困難ト云フベシ（第三十一日）

一、幼稚智識ノ活用ハ誠ニ難キモノニテ数字ヲ摘書スルニ一ヨリ十マテ差支ナキモ二十或ハ三十五ト書スルトキハ速ニ之ヲ讀ミ得サルモノアリ是レ尤ノコトナレハ日々反覆漸々ニ吞ミ込マシムヘキコトナリ

一、日本数字且猶右ノ如シ況ンヤ西洋数字ニ於テヤ昨日 1125 等ヲ教ヘ今日之ヲ試ムルニ正ニ覚えタルモノ両三名ニテ余ハ 11 ヲ一或ハ 25 ヲ二五杯ト答ヘタレハ先ツ日本数字ヲ十分熟セシメテ後之ヲ授クヘキ目的ナリ余等始メテ洋算ヲ学フ時モ如斯ナリケレハ六七歳ノ幼稚ニ在リテハ固ヨリ理ノ当然ナリ

一、数字ノ讀方ト数ノ唱方ト対照スルコト最初ハ頗ル難クシテ四ハ幾何ト問ヘハ二ツト答ヘ三ツノコトハト問ヘハ十杯ト答フルノ類間々アリシカ爾後ハ絶テ無ケレバト三或ハ三ヲ十又ハ三十ト八十ヲ幾箇ナリヤ等問答セリ

一、前月ノ部ニモ云ヘル如ク算額ヲ高声ニテ勘定セシムルノミニテハ倦怠ヲ來スコトアレハ動物図ヲ掛ケ猿ヨリ猫マデト令シ之ヲ目算セシメ成ルモノヲシテ手ヲ上ケシムルコト等時々之ヲ施セリ（第三十二日）

一、今日修身談ノ序ニ或兒ニ吾子ノ同胞幾人ナリヤト問ヒシニ^{オツカサン}嚴爺ニ^{オツカサン}慈母ニ^{チーサン}阿姉ニ^{アカンボ}赤兒ト四人ナリト答ヘタリ余乃チ^{カナイ}眷親トアラバ吾子ヲ合セテ五人同胞ナレハ阿姉ト赤兒ト吾子ニテ三人ナリト知ルヘシト教ヘタリ

一、教場現有ノ物品或ハ生等日々耳目ニ触ルハモノニ就キ種々問答スルコトハ既ニ記セシガ猶今日遊歩場ニ於テ（問）是ハ何（答）枳殼（問）花ノ色ハ如何（答）白ナリ（問）実ハ（答）柚子ニ似タリ（問）食フヘキヤ（答）食フヘカラス（問）之ヲ垣根ニ樹ウルハ如何ナル目的カ（答）穿窬ノ盜ヲ防クナリ其他躑躅、鷄距菜、葎、蒲公英等種々問答セリ是ハ

本府制定ノ教師心得ニモアルコトナリ (第三十三日)

【第 170 号】

一、先日ハ五級後期今日ハ二級前期ニ兼授セリ一昨諸府県ノ師範学校又ハ富実ナル小学校ニテハ余傍教員ノ設アルヲ以テ所勞欠勤等アルモ差支ナキコトナレドモ貧校ニテハ然ル能ハサルノミナラス一人ニテ二組或ハ三組ノ生徒ヲ担当シ欠勤等アルトキハ一組ノモノニテ之ヲ兼授スヘキノ習ナルヲ以テ完然ノ授業ヲ施スハ理ニ於テ能ハサル所ナレドモ通例ノ業ヲ修ムルヲ得ル所以ノモノハ教師ノ篤志勉強ニヨルノミ (第三十五日)

一、本日生徒ニ諭シテ曰ク古言ニ人ノ惡ヲ称セスト朋友中不品行或ハ不注意ノコトアルトキハ務メテ之ヲ戒飾シ猥ニ之ヲ告クヘカラス若シ頑陋ニシテ其厚情ニ背クモノアラハ之ヲ為スモ可ナリト雖ドモ各自先ツ己レカ身ヲ正シクシ他人ヨリ指摘ヲ受ケサル様注意スルコト專要ナリ

一、習字ノ時間ニハ三字書テ等ノ号令ヲ施スヘキナレドモ煩ヲ恐レテ未タ行ハス始終机間ヲ巡リテ之ヲ教ヘ之ヲ正セリ時ニ急遽走筆スル者アリ蓋シ児童ノ心若干冊ノ草紙ヲ衆ニ先チテ習ヒ了ルヲ誇ラントスルニ在ル也余乃チ曰ク吾子カ書方ノ粗ナル更ニ字形ヲナサス争テカ明土曜日ノ清書ヲ善クスヘキ当ニ此ノ如クナルヘシト手ヲ取テ丁寧ニ之ヲ教フ因テ諸生ニ語テ曰ク平常草紙ニ向テハ清書ノ如クナルバク清書ノ時白紙ニ臨テハ平常ノ如クナルヘシ (第三十八日)

一、本級ニ在テ書取習字ハ仮名ノミニシテ漢字ハ数字ニ止ルコトナレドモ住所族籍姓名等ハ肝要ノモノナレハ書取ノ時間ヲ斟酌シテ之ヲ授ケ今日ノ清書ニハ各々姓名ヲ自記スルヲ得タリ尤五六名ハ住所ヲモ書スルヲ得 (第四十日)

一、慈母ノ手ニ長セル一男児アリ授業ノ際其声甚タ低小ニシテ能ク読ムヤ否正シク答フル

ヤ否其側ニアルモノト雖ドモ之ヲ知ルヲ得ルナシ然レドモ書取習字ノ如キハ上等ニ位シ休憩時間互ニ相談スルヲ聞クニ其音舌瞭々タレバ蓋シ威ニ懾ルハノ致ス所ト務メテ之ヲ寛待セシニ今日ニ至リ其読ムヤ清亮其答フヤ明晰 (第四十一日)

一、府下小学校一般ノ風習トシテ教場ニ於テ穿ツ所ノ草履直ニ遊歩場ニ出テ復其儘ニテ教場ニ入ルヲ以テ晴天ノ日ト雖ドモ不潔ノ媒介ヲナスコト少カラサルニ近日ノ如キ隕霜ノ日ニ在リテハ土泥履底一面ニ貼付シ之ヲ拭フモ猶多分ヲ残シ教場中ノ空氣ヲ混濁セシムルコト甚シク為ニ病根ヲ醸スナレハ生等ヲシテ出テシメサル様教師ノ深く注意スヘキ所ナリ尤本校ニテハ近日大掃除ヲナシ爾後土足昇降ヲ禁スヘシト議決セリ

一、近来嚴霜且校内火鉢ノ供給多カラサルヨリ幼稚等就業ノ間寒ニ苦ムノ状ヲ表セリ殊ニ昨今兩朝ノ如キ手指龜縮シテ石筆ヲ執ル能ハサルモノ数名アリケレハ右盤ヲ用イル業ハ午時ニ近キテ之ヲ為セリ (第四十二日)

一、口授ヲナスヤ卑近ニ流ルハトキハ恭敬ノ心ヲ失ハシメ高尚ニ失スルトキハ厭倦ノ念ヲ起サシメ且其演方ノ拙ナルヨリ雑談私語ヲナスアル如キハ毫モ益ヲナサズルモノナレバ其年齢ト知識ニ適當シタルモノヲ撰ビ之ヲ説クヤ意ヲ満場ニ注クトキハ不知不識沈黙耳ヲ傾ケ恰モ目前現出スルノ想ヲナシ其終ルヤ異言同音ニ^{アハヲモシロカツタ}嗚呼快哉ノ声ヲ發セシムル様尤注意スヘキ所ナリ然ルトキハ復他ノ美談ヲ聞カント欲スルノ良心ヲ起シ且能ク其顛末ヲ記シ家ニ歸リテ兩親ニ話スコトヲモ得ベシ是レ昨日ハ鳥ノ話今日ハ忠孝ニシテ且学文勉強ナル御扈從ノ話ヲナシテ実験シタル所ナリ

【第 172 号】

一、最劣生三名ヲ余カ机前ニ呼ビ算額ヲ出シテ之ヲ十箇ツ、算ヘシメシニ百迄差支ナク之ヲ為セリ又一ヨリ一箇ツ、算ヘシメシニ五十迄ハ差支ナキモ其後ハ五十九四十或ハ五十七

五十五或ハ七十三八十一杯ト前後混淆実ニ無茶苦茶ナリシ是レ容易ノ事ニ似タリト雖ドモ児等ニ取リテハ難キコトナルヘシト思ヒタレハ反復丁寧ニ之ヲ教ヘタリ

一、読物モ亦然リ首章ヨリスルトキハ流ルハカ如ク之ヲ読ムモ突然中辺ヲ指ストキハ能ハサルモノアリ是レ即チ摘書法ノ欠クヘカラサル所以ナリ（第四十四日）

一、本日ハ納会ナレバ（十二月二十五日）児等ニ演舌シテ曰ク君等本級ノ業ヲ脩メシヨリ僅々五十日間ニシテ今日此成功ノ著キヲ見ル是レ君等夙夜孜々ノ致ス所独リ余ノ欣悦スルノミナラス君等ノ家蔽北堂モ亦之ヲ嘉賞シ愛重益々深カルヘキヲ信ス然レドモ一旦怠慢ノ念萌ストキハ諸術皆却歩シ多日ノ勤苦モ空シク泡沫ニ属スルナレハ二週間ノ休暇中ト雖ドモ早朝必ス先ツ復習シテ而後嬉戯シ来年ノ発会ヨリハ一層奮励シテ事ニ従ハンコトヲ望ム（第四十九日）

附録

一、語ニ曰ク其身ヲ愛セヨト然レバ偏ニ勉強ヲナシテ病患ヲ醸生スル如キハ学者ノ為ニ取ラサル所也一日黄昏水道橋ノ辺ヲ過キシニ三四ノ児童書籍ヲ腋ニシ行厨ヲ腰ニシ顔色蒼々茫然トシテ来ルアリ就テ見レハ識ル所ノ某校ノ生徒某々ナリ顧フニ異常ノ勉励ヲナセバ随テ異常ノ功績ヲ奏スヘシト雖ドモ今此現象ヲ目撃スルハ断シテ其適度ニ過ルノ致ス所ナルヲ知ル後來ノ成果亦トスヘキナリ又曩ニ余カ明十学校（上等小学）ニアルヤ活発英明ナル二男子（一人ハ十五才 一人ハ十三才）アリ人皆之ヲ異トシ之ヲ器トセシガ頃日聞ク所ニヨレハ共ニ茫然^{ボンヤリ}ト為リ了セリト蓋シ攻学ニ汲々トシテ運動快樂ヲ欠キタルノ所為ナラン誠ニ惜ムヘキコトナリ

余ガ友人前年備後国神石郡某学校ノ試験ニ臨席セシトキ温厚ナル一男子（十二才）アリテ諸科共ニ些ノ失ナカリシガ其終ルヤ否ヤ直ニ場中ニ倒レテ前後ヲ弁セサルニ至

リ回復ノ後同問題ヲ示セシニーモ答フルコト能ハザリシハ全ク徹夜勉強等ノ所為ナリシト語リタリ

【第178号】

一、児等ニ演説シテ曰ク今日ハ明治十二年ノ発会誠ニ大切ノ日ニシテ今日容止謹肅ナル人ハ一歳中ノ良行ヲト知スヘク其粗放ナル者ハ之ニ反ス君等前年ノ勉強ハ余ノ深く満足スル所ナレドモ今君等ノ顔色形貌ヲ観ルニ亦前年ノ君等ニアラザレバ才智從テ長セザルベカラズ芸能從テ達セザルベカラズ身体ハ益々健康ナルベク品行ハ益々方正ナルベシ余モ亦奮励決シテ君等ノ信憑ニ負カザルベシ是ヲ新年ノ祝詞トス（第五十日）

一、新入生三名アリ内二名ハ五歳位ニシテ四月ノ定期試験ハ勿論受クルコト能ハザルモノナレドモ今ヨリ其端緒ヲ学ハシメ十月ニハ合格セシムヘキ目的ナリ加フルニ同僚中帰省者アルヲ以テ一月末迄四級前期生ヲ三時間兼授スベキ都合ニテ彼は配意周旋午前ニハ喫煙ノ暇ヲ得サルコトモアリ是亦貧校不得止ノ事情ナリ

一、歳暮ヨリ新年ニ亘リ二週間ノ休暇ナリシ故児等既ニ修メシ所ノ諸科多分忘却セシナラント之ヲ験スルニ記憶意表ニ出テタリ蓋シ納会演説ノ功能ナルヘシ（第五十一日）

一、物件ヲ算スルニ唯一箇二箇ト称スルヲ知ルノミニテハ不通用ナルコトナレハ三人四匹五羽六本七枚八冊九十十俵等ノ変化ヲ授ケ殊ニ鳥類ヲ幾匹ト称スルコト無キ様注意スベキコトナリ（第五十五日）

一、教則ニ拠レハ生徒心得中ノ文字ヲ仮名ニ綴リテ書取ラシムヘキ筈ナレドモ強チ左様許モ行キ兼ヌル所ナレハ最初ノ間ハイトイヌイヘイシイケノ如クイヲ基トシテ配スルニトヌ等ヲ以テシ又ハイトトビビハハ子子コノ如ク前語ノ尾ヲ以テ後語ヲ頭トナス等ノ法ヲ用イテ習熟セシムベキコトナリ

一、数字書取モ最初ハ右ノ法ヲ用イ今日ヨリハ例ヘバ二十五ノ如ク三字ノモノヲ書取ラシメ且其度毎ニ算顆ニテ其数ヲ示セリ(第五十六日)

一、今日休憩時間児等ヲ集メテ伊蘇普物語ヲ看セシム衆其挿ム所ノ図ヲ見テ各々想像説ヲ立テ、理ヲ争フ余衆説ノ了ルヲ待テ之ヲ解釈シ疑團迷誤ナカラシメ而シテ之ヲ戒メ之ヲ論スス亦智ヲ開キ善ニ導クノ法ナリ

一、十五十六ノ両日ハ欠席甚多シ総テ旧五節句等ニハ休業スルノ風アリ年来ノ風習故大ナル関係ナキ以上ハ強テ廃絶スルニモ及バザルベケレドモ日曜及大祭ノ外右等ノ日ニ休業スルトキハ一歳中受業ノ日数ヲ減縮スルヲ以テ生等ノ不経済トナルベケレドモ夫等ノコトハ毫モ念頭ニ掛ケザルナリ然シ農暇学ニ就ク輩多キ地ニ在テハ官府ニ倣ヒテ休業スル能ハザル事情モアルベシ(第五十七日)

【第 180 号】

一、日本数字ノ書取ハ稍熟シ西洋数字モ単書スルコトハ済ミタレバ来週ヨリハ該字 11 以上ノ読方書方トモ之ヲ授クベキ目的ナリ

一、同僚五十嵐氏曰ク六級前後期ノ如キ初級ノ幼稚ニ授読スルニハ先ツ奨励ノ言ヲ用イテ志氣ヲ奮起セシメ漸ク意ヲ課業ニ注クノ時ニ於テスベシ若シ此一寸ノ好機ヲ失フトキハ長キ時間ヲ費シ幾遍繰返スト雖ドモ決シテ其目的ヲ達スルコト能ハザルモノナリト之ヲ試ムルニ果シテ然リ(第五十八日)

一、今年発会以来十日間進歩セル所ヲ挙クレハ生徒心得読方十三条迄講義十條迄清書マミム迄等ナリ

一、本日ハ授業日数ノ中央ニシテ即三月三十一日迄モ五十九日ナリ以前ノ成績ヲ以テ之ヲ推セバ四月初旬ニ於テ試験ヲ受クルモ更ニ差支ナカルベシト思ヘリ(第五十九日)

附録

一、一宵有名ノ算術先生ヲ訪ヒ語次小学校ノコトニ及ブ先生曰ク余カ許ニ来ル所ノ一女子

アリ万世橋邊ノ女学校ノ生徒ナリ現在転比例ヲ修ムル由ナレドモ未タ分数ヲ運用スルコト能ハス且過日宿題ヲ持ち来リ答式ヲ求メシ故之ヲ与ヘシニ学校ノ教師ハ不正ナリト云ヒシトゾ未タ其孰カ是ナルヲ知ラス呵々

附言 爰ニ教師ノ宜シク注意スベキ三件アリ第一既ニ修メタル所ハ忘レザラシムベシ第二輕率以テ大方ノ笑ヲ招ク勿レ第三宿題ノ趣意ハ充分ノ時間ヲ与ヘテ数理ヲ探求セシムルニアレハ父兄或ハ其他ノ人ノ助力ヲ乞ハシムル勿レ

【第 183 号】

一、近来児等ノ智力日ヲ遂ケ發育スルガ如シト雖ドモ客歳ニ比較スレバ進歩較々鈍ナルヲ覺ユルハ雨天降雪等ニテ道路懸隔セル児等ノ欠席屢ナルニ因テナリ人煙稠密道路堅牢ノ地ニテハ斯ルコトハナキ筈ナレドモ我小石川区北部ノ如キハ阪路高低泥濘深淤馬車モ容易ナラザル処アレバ深く責ムベキニアラザルナリ

一、小児ノ性質ニ強弱アレバ保育自ラ異ラザルベカラズト雖ドモ総テ案外ニ健康ナルモノナレバ此時ヨリ之ヲ放任シ寒暑ニ堪エシムベシ然レドモ老牛舐犢ノ諺ニテ爺嬭ノ児孫ヲ愛重スルヨリ思慮其度ヲ過キ寒中休暇ヲ申出タルモノ尙三名アリ是レ却テ薄弱ナラシムルノミナラズ驕傲ノ氣ヲ養フモノニシテ遂ニハ為家犬所囓其手ノ患ヲ招クニ至ルベケレバ厚ク説諭ヲ加ヘタリ(第六十日)

一、一昨日ヨリ西洋数学 11 以上ヲ授ケ明瞭ニ之ヲ説キ明セシニ読方書取其甚シキ困難ヲ見ズ追々進歩ノ状アリ蓋シ日本数字ノ十分熟達セシ故ナルベシ(第六十二日)

一、書足記姓名トハ決シテ容易ノコトニアラザルナリ然レドモ頃年各公立小学校ニテハ習字ヲ輕ズルノ風トナリ生等書スル所ノモノ字格法ヲ失ヒ位置規無ク見ルニ堪ヘザルニ至ルニ教師ノ注意到ラザル故ニテ縦令ヒ六七オノ小児ト雖ドモ實地其方指示スルトキハ運筆自ラ正シキモノナリ本級ノ如キ最初ハ推実筆

ヲ執ルモ極メテ難カリシガ近來ハ多分通例ノ
永筆ヲ用テ今日ノ清書ニハ字格端正向背藏鋒
見ルベキモノアリ是其証ナシ

一、修身口授ハ故ラニ談話ヲ設ケテ之ヲ為ス
ヨリハ實際ノ所業ニ付キ之ヲ指授シ之ヲ矯正
スル方一層ノ感触ヲ増スベシ例之火鉢ノ火ヲ
弄スルトキハ小学読本第二第四回ヲ談シ互ニ
争聞スルトキハ堪忍或ハ以德報怨ヲ講スルノ
類ナリ (第六十五日)

評ニ曰ク各論感服

一、読物ノ法ハ前段屢之ヲ説キシカ頃日ヨリ
ハ今日読ミタル処ハ翌日講義ヲ授クルヲ得ル
ニ至レリ (第六十六日)

一、生等ニ問フ明日ハ日曜日ナリヤ答ヘテ曰
ク否又問フ然ラバ何故ニ休暇ナリヤ 孝明天
皇御祭ト答フルヲ得ルモノ六七名アリ然レド
モ其何タルヲ知ルモノナシ余乃チ告ゲテ曰ク
恐多クモ先帝即チ 今上陛下ノ御父君ニ座シ
テ某子ノ誕生ニ先ツコト若干年前ニ崩御座セ
シナリ云々且御幼年ニ在セシ時中山從一笠置
潛幸ノ段ヲ進講シ奉リシニ深く御感銘給ヒシ
事等ヲ敬聴セシメタリ (第六十八日)

評ニ曰ク注意深シト云フベシ

一、恥入リタル件ト申スベキハ爰ニ六年八ヶ
月ノ男子アリ元來裏店ニ成長セルモノニシテ
余ガ前ニ於テハ巧ニ沈着寡言ノ貌ヲ装フト雖
ドモ実ハ狡猾貧婪ニシテ常ニ同儕中ナル富家
ノ子弟ヲ欺キ数多ノ墨石筆等ヲ奪ヒ甚シキニ
至リテハ得意ノ腕力ヲ以テ之ヲ压制シ弁当料
ノ麵包ヲ得テ始メテ媾和ヲ聴スニ至ル是レ余
ノ教育未タ到ラサル所ト深く自ラ之ヲ責メ該
物品ハ悉ク元主ニ還与セシメ厚ク説諭ヲ加フ
ル数回ニ及ベドモ未タ全ク其性根ヲ絶ツコト
能ハザルハ誠ニ憾トスル所ナレバ日夜運籌図
策セリ

附 録

一、総テ童子ハ書ヲ講スルモ徒ニ文字ニ拘泥
シテ其本意及ヒ形状ノ何タルヲ解スルコト能
ハザレドモ談話ハ誠ニ能ク記憶スルモノナリ

就テハ近來遊歩場ノ乾ク暇ナケレバ本月中旬
ヨリ午時ノ休憩時間ニ四級以上七八十人ノ生
徒等ヲ一場ニ集メテ古今ノ歴史ヲ談セシニ皆
欣々然トシテ之ヲ聴キ能ク其顛末ヲ記シ平素
ノ課業ニモ講義等自ラ明瞭ナルニ至レリ

一、教師謂ヘラク此瑣細ノ事ハ生等業已ニ之
ヲ知ルナルベシト而シテ之ヲ不問ニ措クハ
往々アルコトナレドモ地誌畧ヲ修ムルノ生徒
ニシテ地理初歩ヲ忘却シ冲灘ノ何物タルヲ知
ラザルノミナラズ海峽ト瀬戸ト異ニシテ峯ト
峠ハ同キモノト思ヒ居ルモノ現ニアルコトナ
レバ宜シク注意スベキコトナリ (未完)